



Ensemble 14 - 24te. Konzert

Ensemble 14 第24回演奏会

2015.11.21(土) 13:30 開演 於：浜離宮朝日ホール

ごあいさつ

本日はようこそお越しくございました！

J. S. バッハの作品の声楽作品のみを取り上げて演奏会を重ね、ほぼ年に2回ペースでの演奏会開催を続け、はや24回の演奏会を重ねて来ることが出来ました。今日までこのグループの演奏会に足をお運びくださった聴衆の皆様、アンサンブル14のメンバー各位に、そして毎度毎度の練習に誰よりも真摯な姿勢で取り組み支えてくださるピアニストの田城章子さんに心から感謝申し上げます！！

私がバッハのカンタータというジャンルの芸術に出会ったのは今を遡ること38年も前、藝大バッハカンタータクラブ入部の時のこととなります。「自分はカンタータに育てて頂いた」と日々思っているのですが、現状の自分の音楽家としての有様を考えるとそれをカンタータの所以とするのは畏れ多いもので、これまた畏れ多いと思いつつもこのジャンルを私に手ほどきしてくださった小林道夫・佐々木正利両氏のお名前を、ご本人のご承諾を得ぬままに「師」としてプロフィールに載せさせて頂いております。

そして今、それらの師と過ごした期間を遥かに超える年月を、私はこのアンサンブルグループとカンタータというジャンルを通してお付き合いさせて頂いております。本当に口に出したらどれだけ付け込まれるか判りませんので申し上げますが、彼等への感謝はそれこそ言葉で表しようの無

いほどなのです。今日ご共演くださる素晴らしいオーケストラの皆様もこのジャンル・このグループの活動を通してお付き合いさせて頂けるようになりました。

本当にこんな不勉強な私には過大な場を与えて頂いていると感謝しつつ、本日もステージに立たせて頂きます。今日は演奏会の後に打ち上げがあるのに、明後日にはこのグループ主催の芋煮会なる一大反省会(嘘)が開催されます。音楽家になって良かった、させて貰って良かったと、そんな感慨に浸らせてくれる彼らと奏でるバッハの音楽を、至福の私の表情とともに最後までご堪能いただければ幸いです。



Ensemble 14 指揮者
辻 秀幸



本日は、Ensemble14 (アンサンブル・フィアツェン) の演奏会に足をお運びいただき、誠にありがとうございます。団員一同、心より御礼申し上げます。

Ensemble14 は、1998年8月に、バッハの『マタイ受難曲』の第2コーラスを歌おうとの呼びかけに応じて誕生した合唱団です。以来教会カンタータを中心に、一貫してバッハの声楽作品を歌い続けてきました。

今回演奏するカンタータ4曲のうち、150番は、Ensemble14の第1回演奏会(1999年9月)で演奏して以来、実に16年ぶりの再演となります。個人的な事を書きますと、当時はバッハ初心者で、その音楽の良さがいまひとつわかっていなかった私を、「バッハって何て素晴らしい！」と一気にバッハ好きにさせてくれた、思い入れの強い曲です。

団創立期の演奏会で採り上げた曲の再演ということで、本プログラム中にその頃の写真も掲載しています。当時からずっと在籍しているメンバーも何人かいますが、16年もたっているにもかかわらず、意外と皆それほど変わっていないと思うのは、身内びいきでしょうか(笑)。見た目はと

もかく(?)、辻先生のご指導のもと、難しいバッハの曲に真摯に取り組み、練習を大事にして楽しみつつ、できるだけ良い音楽にしようと思う気持ちはずっと変わらず持ち続けてきたつもりです。今後もその気持ちを忘れずに、活動していきたいと思っております。

本日は、合唱・独唱曲とも、団員が演奏いたします。練習の成果を発揮すべく、精一杯演奏させていただきますので、終演までごゆっくりお聴き頂ければ幸いです。

最後になりましたが、笑いに溢れた練習のうちに、真摯で生き生きとした音楽作りへと導いてくださいます指揮者の辻秀幸先生、バッハ演奏のスペシャリスト揃いで、素晴らしい音楽で合唱を支えてくださるミレニウム・バッハ・アンサンブルの皆様、練習で献身的にサポートして下さる練習ピアニストの田城章子先生、そして今回のソリストオーディションで審査員を務めてくださいましたメゾソプラノの栗林朋子先生に、深く感謝申し上げます。

Ensemble14 代表
室橋 明美

Programm

作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

Johann Sebastian Bach (1685-1750)

カンタータ 第 177 番「私はあなたへと呼びかけます、主イエス・キリストよ」

Kantate "Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ", BWV 177

(2) 寺崎 淳子 Alt (3) 子井野 真貴子 Sopran (4) 室橋 義明 Tenor

カンタータ 第 64 番「見なさい、どれほどの愛を父なる神は示してくださったか」

Kantate "Sehet, welch eine Liebe hat uns der Vater erzeiget", BWV 64

(3) 柿原 紀子 Alt (5) 佐藤 かおり Sopran (6) 菅野 松佐登 Bass (7) 小田 奈穂子 Alt

～ Pause / 休憩 ～

カンタータ 第 150 番「主よ、私はあなたを求めています」

Kantate "Nach dir, Herr, verlanget mich", BWV 150

(3) 川村 昌子 Sopran (5) 中神 康一 Alt, 中西 隆紀 Tenor, 木下 剛 Bass

(7) 湊 佳代 Sopran, 小林 良子 Alt, 室橋 義明 Tenor, 小林 尚弘 Bass

カンタータ 第 97 番「私の全ての行いにおいて」

Kantate "In allen meinen Taten", BWV 97

(2) 大内 良太郎 Bass (3) 中西 隆紀 Tenor (4) 長澤 哲 Tenor (5) 小田 奈穂子 Alt

(6) 山形 可奈子 Alt (7) 室橋 明美 Sopran, 木下 剛 Bass (8) 菅野 総子 Sopran

BWV: Bach-Werke-Verzeichnis (バッハ作品総目録番号)



指揮 辻 秀幸

管弦楽 Millennium Bach Ensemble

声楽 Ensemble14

楽曲解説・歌詞対訳

楽曲解説：中西 隆紀 歌詞対訳：室橋 明美

カンタータ 第177番「私はあなたへと呼びかけます、主イエス・キリストよ」

Kantate "Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ", BWV 177

三位一体節後第4日曜日のためのカンタータ

Johann Agricola 作のコラール

« Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ » 全節

演奏会の冒頭を飾るカンタータは、1732年7月6日、三位一体節後第4日曜日の礼拝で初演された。バッハのカンタータの中ではかなり後期の作品だ。

教会暦では春の復活祭（今年の場合4月5日）から数えて40日後に昇天祭、さらにその10日後に聖霊降臨祭という大きな祝日が続く。聖霊降臨祭の翌週が三位一体節（今年5月31日）で、その後クリスマスの4つ前の日曜日に始まる待降節までの間の日曜日は、三位一体節後何番目に当たるかで、例えば三位一体節後第4日曜日のように呼ばれる。バッハはライプツィヒ着任の翌年にあたる1724年の三位一体節後第1日曜日から翌年の復活祭前まで、いわゆるコラール・カンタータを作曲した。ただ、1724年7月2日の三位一体節後第4日曜日はマリアの訪問の祝日と重なったため、そのためのカンタータ（ドイツ語マニフィカトであるカンタータ10番「わが魂は主を誉めまつる」）を作曲した。この177番は1724年のコラール・カンタータ年巻の不足を補うために書かれたものである。

歌詞はJ. アグリーコラのコラール「Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ」によっている。5節からなるコラール歌詞を冒頭合唱、3曲のアリア、終曲コラールにそれぞれ使っている。

冒頭合唱ではソプラノ・パートがコラール旋律を歌う。まず、曲の出だしからオーボエと弦楽が奏でるメランコリックなメロディーに惹きこまれる。特に何度も出てくるティラリララという装飾音が切なく、心に残る。このティラリララの繰り返しとオーボエが時々同じ音を伸ばすことで、イエスへの切なる呼びかけを表現しているのだろうか。哀愁に満ち

たメロディーはバッハの得意とするところであり、名付けてバッハ節とも言おうか、私たち日本人の心の琴線に触れる。こうした曲を聴くと、つくづくバッハは稀代のメロディー・メーカーだと感心する。現代に生きていたら、きっと次々とヒットを飛ばしていたに違いない。

3曲のアリアはアルト、ソプラノ、テノールの順で歌われる。それぞれ個性的で完成度の高い曲だ。チェロの伴奏に乗って歌われるアルトのアリアは、「私はなおも願います」という出だしの歌詞にあるように、冒頭合唱の切ない曲想を引き継いでいる。「geben（与える）」や「darneben（さらに）」という歌詞に付けられたメリスマのメロディーに希望の光を感じる。次のソプラノのアリアはのんびりした感じの明るいオーボエの伴奏で始まる。「私に敵を赦す気持ちを与え、新しい命を与えてください」と歌う前半と、「あなたの言葉で私の魂を養ってください」と歌う後半部からなり、終始優美な雰囲気にも包まれるアリアだ。続くテノールのアリアは一転、アップテンポの軽快な曲となる。ヴァイオリンの小気味良い浮き浮きするような旋律と、ファゴットのほんわかした感じとの兼ね合いが絶妙である。前半、同じメロディーが2回繰り返され、テノールの歌唱は快活に進んでいく。後半部では「Sterben（死）」という歌詞を歌うところでやや神妙になるが、全体的に終始賑やかな心躍るアリアである。

終曲のコラールは、全体的に動きがあり臨時記号も多い。後半ステージで演奏するカンタータ97番の終曲コラールもそうだ。ともに後期の作品だが、バッハも段々と和声付けに凝るようになってきたということだろうか。

1. Chor

Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ,
Ich bitt, erhör mein Klagen,
Verleih mir Gnad zu dieser Frist,
Lass mich doch nicht verzagen;
Den rechten Glauben, Herr, ich mein,
Den wollest du mir geben,
Dir zu leben,
Mein'm Nächsten nütz zu sein,
Dein Wort zu halten eben.

1. 合唱

私はあなたへと呼びかけます、主イエス・キリストよ、
願わくば、私の嘆きに耳をかたむけ、
この限りのある日々に、私に恵みを与えてください。
しかし、私が勇気を失うことのないようにしてください。
真の信仰を、主よ、私は望みます、
あなたが、私に与えようとしておられる信仰を。
私があなたのために生き、
私の隣人の役に立つものとなり、
あなたの御言葉を正しく守るように。

2. Arie (Alt)

Ich bitt noch mehr, o Herre Gott,
 Du kannst es mir wohl geben:
 Dass ich werd nimmermehr zu Spott;
 Die Hoffnung gib darneben,
 Voraus, wenn ich muss hier davon,
 Dass ich dir mög vertrauen
 Und nicht bauen
 Auf alles mein Tun,
 Sonst wird mich's ewig reuen.

3. Arie (Sopran)

Verleih, dass ich aus Herzens Grund
 Mein' Feinden mög vergeben,
 Verzeih mir auch zu dieser Stund,
 Gib mir ein neues Leben;
 Dein Wort mein Speis lass allweg sein,
 Damit mein Seel zu nähren,
 Mich zu wehren,
 Wenn Unglück geht daher,
 Das mich bald möcht abkehren.

4. Arie (Tenor)

Lass mich kein Lust noch Furcht von dir
 In dieser Welt abwenden;
 Beständig sein ans End gib mir,
 Du hast's allein in Händen;
 Und wem du's gibst, der hat's ümsonst:
 Es kann niemand ererben
 Noch erwerben
 Durch Werke deine Gnad,
 Die uns errett' vom Sterben.

5. Choral

Ich lieg im Streit und widerstreb,
 Hilf, o Herr Christ, dem Schwachen!
 An deiner Gnad allein ich kleb,
 Du kannst mich stärker machen.
 Kömmt nun Anfechtung, Herr, so wehr,
 Dass sie mich nicht umstoße.
 Du kannst maßen,
 Dass mir's nicht bring Gefahr;
 Ich weiß, du wirst's nicht lassen.

2. アリア (アルト)

私はなおも願います、おお、主なる神よ、
 あなたに、きっと示して頂けることを、
 私は決して嘲りを受けるようなことはないのだと。
 さらに、私に希望を与え、
 私がここから去るべき時、それに先立って、
 あなたを頼みとし、
 自分のこれまでの行いを
 あてにすることのないようにしてください。
 さまなければ、私は永遠に後悔することでしょう。

3. アリア (ソプラノ)

与えてください、私が心の底から
 私の敵を赦したいと思う気持ちを。
 今この時に、私のこともまた赦し、
 新しい生命を与えてください。
 あなたの御言葉を、どんな時にも私の糧となし、
 それによって私の魂を養ってください。
 私を押しとどめてください、
 災いが襲い来て、
 私をすぐさま、あなたから背かせようとする時に。

4. アリア (テノール)

この世のいかなる快樂や怖れによっても、
 私があなたに背くことはありませんように。
 最期の時に、揺るがない心を私に与えてください。
 あなたひとりが、それを手にお持ちなのですから。
 そしてあなたが与える人は、無償でそれを手に入れるのです。
 誰も受け継ぐことはできず、
 行いによって勝ち得ることもできないのです
 あなたの恵み、
 私たちを死から救う、あなたの恵みは。

5. コラール

私は戦いの中にあって、抵抗しています。
 助けてください、おお、主キリストよ、弱き者を!
 ただあなたの恵みだけに、私はすがります、
 あなたは、私を強くしてくださるのですから。
 今、試練が来たら、主よ、押しとどめてください、
 それらが私を突き倒すことのないように。
 あなたは、それらが度を過ぎず、
 私に危険をもたらすことのないようにしてくださいます。
 私は知っています、あなたがそれらをこのままにさせてはおかないと。

※歌詞および対訳中の太字部分は、バッハが作曲した当時、既に教会で一般的に歌われていたコラール(讃美歌)の歌詞と旋律が用いられている箇所です。

カンタータ 第 64 番「見なさい、どれほどの愛を父なる神は示してくださったか」

Kantate "Sehet, welch eine Liebe hat uns der Vater erzeiget", BWV 64

降誕祭第 3 日目のためのカンタータ

歌詞：作者不詳

このカンタータは、1723 年 12 月 27 日、降誕節第 3 日にライブツィヒで初演された。キリスト教の 2 大祝日である降誕祭（クリスマス）と復活祭はともに 3 日間に亘って祝われる。この年のクリスマスの 3 日間に演奏されたのは、63 番（ヴァイマル時代の作品の再演）、40 番、そしてこの 64 番である。このカンタータは、全体的に祝日用の曲にしては音楽も歌詞も厳しい内容だという印象を聴く者に与える。それは、この日（降誕節第 3 日）の福音がヨハネ伝から取られ、死を思い、来世を待ち望むことが降誕の意義とされていることから来ている。

冒頭合唱は古風なモテット様式で、前奏なしでいきなり「Sehet（見なさい）！」という合唱の呼びかけで始まる。続いてソプラノ、アルト、テノール、バスの順で「どれほどの愛を父なる神は私たちに示してくださったか」という歌詞でフーガが繰り広げられ、終始峻厳な雰囲気が続く。最後の数小節の「私たちが、神の子と呼ばれるほどに」でようやく 4 パートが揃う。

続いて冒頭合唱の内容を引き継ぐ形で、マルティン・ルターの有名なクリスマス・コラール「Gelobet seist du, Jesus Christ」の最終節が歌われる。このカンタータは珍しくコラールが 3 曲あるが、直接クリスマスに関するコラールはこの曲だけだ。この後、「この世の物はすべて虚しい」と歌うアルトのレチタティーヴォは、これまた有名なコラール「Was frag ich nach der Welt」を導きだす。

この流れが一段落したところで、ソプラノの印象深いアリアとなる。このアリアは A-B-A の完全ダカーポ形式で、A の部分ではソプラノが「この世のものは煙のように消え去

る」と歌う。通奏低音に支えられた弦楽器が煙を表すような音型を奏でるが、中間部 B に入り、ソプラノが「ですが、私の魂が愛するものは永遠に在り続けるのです」と歌い出すと、通奏低音が一時休止し、ヴァイオリンのユニゾンで永遠を表す長い音型が現れる。このように通奏低音が休んで高音楽器と声楽だけで演奏する編成をバセットヒエンと呼ぶそうだが、バッハのカンタータや受難曲のアリアでこうした編成となる曲は極めて限られている。よく知られている曲では、マタイ受難曲の後半にある息を呑むほど美しいソプラノのアリア「Aus Liebe will mein Heiland sterben（愛ゆえにわが救い主は死のうとされます）」がそうだ。

深刻な感じのバスのレチタティーヴォのあと、牧歌的なアルトのアリアが来る。やはり完全ダカーポ形式で、「私は天さえ受け継ぐことができれば、この世に何ひとつ求めません」と歌う。オーボエの柔らかい音色が聴く者の心に安らぎを与える。これまで厳しい感じの曲が続いてきたので、ほっとする瞬間である。オーボエ伴奏のアルトのアリアには心を癒してくれる曲が多い。ずっとその音楽に浸っていたくなるような、そんな名曲がある。例えばカンタータ 42 番のアリアなどがそうだ。

終曲コラールではまた厳粛な雰囲気に戻る。歌詞は有名なヨハン・フランク作の「Jesu, meine Freude」から取られ、モテット第 3 番の 9 曲目にも出てくる「Gute Nacht, o Wesen」である。和声付けは最初は単純であるが、最後は表情豊かに終わる。

1. Coro

Sehet, welch eine Liebe
hat uns der Vater erzeiget,
dass wir Gottes Kinder heißen.

2. Choral

Das hat er alles uns getan,
Sein groß Lieb zu zeigen an.
Des freu sich alle Christenheit
Und dank ihm des in Ewigkeit.
Kyrie eleis!

1. 合唱

見なさい、どれほどの愛を
父なる神は私たちに示してくださったか、
私たちが、神の子と呼ばれるほどに。
(『ヨハネの手紙一』3 章 1 節)

2. コラール

神はその全てを私たちのために行ってくださいました、
それは、神の大いなる愛を示すためなのです。
そのことを、全てのキリスト者は喜び、
神に永遠に感謝します。
主よ、私たちを慈しんでください!

(Martin Luther 作のコラール « Gelobet seist du, Jesu Christ » 第 7 節)

3. Rezitativ (Alt)

Geh, Welt! behalte nur das Deine,
 ich will und mag nichts von dir haben,
 der Himmel ist nun meine,
 an diesem soll sich meine Seele laben.
 Dein Gold ist ein vergänglich Gut,
 dein Reichtum ist geborget,
 wer dies besitzt,
 der ist gar schlecht versorget.
 Drum sag ich mit getrostem Mut:

4. Choral

Was frag ich nach der Welt
 Und allen ihren Schätzen,
 Wenn ich mich nur an dir,
 Mein Jesu, kann ergötzen?
 Dich hab ich einzig mir
 Zur Wollust vorgestellt:
 Du, du bist meine Lust;
 Was frag ich nach der Welt!

5. Arie (Sopran)

Was die Welt
 in sich hält,
 muss als wie ein Rauch vergehen.
 Aber was mir Jesus gibt
 und was meine Seele liebt,
 bleibet fest und ewig stehen.

6. Rezitativ (Bass)

Der Himmel bleibt mir gewiss,
 und den besitz ich schon im Glauben.
 Der Tod, die Welt und Sünde,
 ja selbst das ganze Höllenheer
 kann mir, als einem Gotteskinde,
 denselben nun und nimmermehr
 aus meiner Seele rauben.
 Nur dies, nur einzig dies macht mir noch Kümmernis,
 dass ich noch länger soll
 auf dieser Welt verweilen:
 denn Jesus will den Himmel mit mir teilen,
 und dazu hat er mich erkoren,
 deswegen ist er Mensch geboren.

3. レチタティーヴォ (アルト)

立ち去りなさい、この世よ!ただ自分のものだけを持って。
 私はお前から、何ひとつ受け取る気はありません。
 天こそ、いまや私のもの、
 そこで、私の魂は癒えるでしょう。
 お前の財貨は、はかない宝、
 お前の富は、借り物であり、
 これを所有する者は、
 全く無価値なものを持たされているのです。
 ですから、私は安らかな心で言うのです。

4. コラール

この世と、その全ての宝の
 何を気にかけることがあるでしょう?
 私は、ただあなたにおいてのみ、
 私のイエスよ、喜ぶことができるのですから。
 あなただけを、私にとってただひとつの
 この上ない喜びとして思い浮かべてきました。
 あなたは、あなたこそは、私の望むものなのです。
 この世の何を気にかけることがあるでしょう!

(Georg Michael Pfefferkorn 作のコラール « Was frag ich nach der Welt »第1節)

5. アリア (ソプラノ)

この世が
 その内に持つものは、
 煙のように消え去ってしまうはずですが、
 ですが、イエスが私に与えてくださり、
 私の魂が愛するものは、
 変わることなく、永遠に在り続けるのです。

6. レチタティーヴォ (バス)

天は、私にとって変わらず確かなものであり、
 私はすでに、信仰のうちに天を抱いているのです。
 死も、現世も、罪も、
 地獄の全ての軍勢をもってしても、
 神の子である私に対して、
 この天を、今もこれからも決して
 私の魂から奪うことはできないのです。
 ただひとつだけ、今なお私の心を悲しませるのは、
 私が、まだしばらくの間
 この世にとどまらなければならないということだけです。
 なぜなら、イエスは天を私と分かち合うために
 私をお選びになり、
 それゆえに、人として生まれてくださったのですから。

7. Arie (Alt)

Von der Welt verlang ich nichts,
wenn ich nur den Himmel erbe.

Alles, alles geb ich hin,
weil ich genug versichert bin,
dass ich ewig nicht verderbe.

8. Choral

Gute Nacht, o Wesen,
Das die Welt erlesen!
Mir gefällst du nicht.
Gute Nacht, ihr Sünden,
Bleibet weit dahinten,
Kommt nicht mehr ans Licht!
Gute Nacht, du Stolz und Pracht!
Dir sei ganz, o Lasterleben,
Gute Nacht gegeben!

7. アリア (アルト)

私はこの世に何ひとつ求めはしません、
ただ、天さえ受け継ぐことができれば。

全てを、全てのものを、私は手放します、
私は、もうすっかり約束されているのですから、
私は永遠に、損なわれることはないのだと。

8. コラール

さらば、この世が選び出し、
この世に存在するものよ!
お前たちを私が気に入ることはありません。
さらば、罪よ、
はるか彼方にとどまり、
二度と光の当たる場所に姿を見せてはなりません!
さらば、高慢と虚飾よ!
墮落した日々よ、お前には、
永遠の眠りが与えられますように!

(Johann Franck 作のコラール 《Jesu, meine Freude》第5節)



2000年 Ensemble 14 第2回演奏会
於：神奈川県民ホール 小ホール

カンタータ 第 150 番 「主よ、私はあなたを求めています」

Kantate "Nach dir, Herr, verlanget mich", BWV 150

用途不明のカンタータ

歌詞：作者不詳

このカンタータはバッハのヴァイマル時代（1708～1717年）に演奏されたと考えるのが一般的だが、楽曲形式からするとミュールハウゼン時代（1707年夏～1708年夏）もしくはその前のアルンシュタットで作曲された可能性もあるとされる。そうするとバッハの現存する最古のカンタータということになる。オーケストラの編成が小さく、独唱の役割が制限されているのは演奏時の制約によるものとされるが、一方で、一部に稚拙とも思える平板さがみられることから偽作ではないかという説もある。このように諸説ある謎の多いカンタータだが、それがどうであれ、現代の私たちにとって極めて魅力的なカンタータのひとつであることに変わりはない。

歌詞は詩編第 25 編をベースに、現世の困難に苦しみ悩む中でひたすら神を信頼し、その救いを待ち望むキリスト者の心を歌っている。

まず最初にシンフォニアが置かれている。ミュールハウゼン時代のカンタータ 4 番、196 番にも同様のシンフォニアがあり、この 150 番も同時代の作品である可能性が考えられるのだ。続く第 2 曲は、シンフォニアにも現れた半音下降の旋律で始まる。曲想の違う短い 5 つの部分の繋げていくモテット風の構成をとり、これもミュールハウゼン時代のカンタータの特徴のひとつである。

第 3 曲はヴァイオリンがユニゾンで奏するオブリガート付きのソプラノのアリア。続く第 4 曲は合唱で緩一急一緩の 3 つの部分に分かれる。出だしの「Leite mich（私を導

いてください）」は、もはや下降型ではなく、バス・パートから順にソプラノ・パートに至るまで、まるで祈りがうねりとなって天に向かうように大きく上昇する。第 5 曲はアルト、テノール、バスによる三重唱である。軽やかな伴奏に乗って「杉の木は、風によって～」とリート風のさわやかなハーモニーが歌われる。一服の清涼剤と言った感じの曲である。ちなみにバッハのカンタータで 3 重唱は珍しい。他ではカンタータ 38 番（テノール以外の 3 パート：以下同じ）、116 番（アルト以外）、122 番（バス以外）にあり、ソプラノ以外の 3 パートによるこの曲を合わせると、4 つの組合せが網羅されているのは面白い。

このあと合唱曲が 2 曲続くが、第 6 曲の方は第 2 曲、第 4 曲と比較的感じが似ている。2 つの部分に分かれ、前半は「stets（絶えず）」という歌詞が強調される。後半は「主は、私の足を網から引き出してくださる」と歌うフーガで始まり、伴奏、合唱ともに「網にかかった足」がよく表現されている。第 7 曲の方は 3 拍子の舞曲であるシャコンヌで、冒頭に通奏低音が奏でるオスティナート・バス（低音音型の繰り返し）の 4 小節の主題が、調性を変えて 22 回反復される。ブラームスがこの低音音型による変奏を交響曲第 4 番の最終楽章で使ったことは有名である。ここでは、現世の苦しみを乗り越えて信仰の道を歩む決意が歌われ、このカンタータを締めくくるに相応しい敬虔な祈りに満ちた終曲となっている。



1999 年 マタイ受難曲演奏会
於：日本基督教団 奥沢教会

1. Sinfonie

2. Chor

Nach dir, Herr, verlangst mich.
Mein Gott, ich hoffe auf dich.
Lass mich nicht zu Schanden werden,
dass sich meine Feinde nicht freuen über mich.

3. Arie (Sopran)

Doch bin und bleibe ich vergnügt,
obgleich hier zeitlich toben
Kreuz, Sturm und andre Proben,
Tod, Höll und was sich fügt.
Ob Unfall schlägt den treuen Knecht,
Recht ist und bleibt ewig Recht.

4. Chor

Leite mich in deiner Wahrheit und lehre mich,
denn du bist der Gott, der mir hilft,
täglich harre ich dein.

5. Arie (Terzett: Alt, Tenor und Bass)

Zedern müssen von den Winden
oft viel Ungemach empfinden,
oftmals werden sie verkehrt.
Rat und Tat auf Gott gestellet,
achtet nicht, was widerbellet,
denn sein Wort ganz anders lehrt.

6. Chor

Meine Augen sehen stets zu dem Herrn,
denn er wird meinen Fuß aus dem Netze ziehen.

7. Chor

Meine Tage in dem Leide
endet Gott dennoch zur Freude;
Christen auf den Dornenwegen
führen Himmels Kraft und Segen;
bleibt Gott mein treuer Schutz,
achte ich nicht Menschentrutz.
Christus, der uns steht zur Seiten,
hilft mir täglich sieghaft streiten.

1. シンフォニア

2. 合唱

主よ、私はあなたを求めています。
私の神よ、私はあなたに望みをかけているのです。
私に恥辱を負わせないでください、
私の敵が、私のことで喜ぶことがないように。

(『詩編』25編 1 - 2節)

3. アリア (ソプラノ)

けれども、私は満ち足りたままなのです。
たとえこの世で
十字架、嵐、その他の様々な試練や、
死、地獄、そして定められた出来事が荒れ狂おうとも。
たとえ、災いが忠実なしもべを打とうとも、
正義は在り、永遠に正義であり続けるのです。

4. 合唱

私をあなたの真理へと導き、私にそれを教えてください。
あなたは、私を救ってくださる神なのですから。
日々、私はあなたを待ち望んでいるのです。

(『詩編』25編 5節)

5. アリア (アルト、テノール、バスの三重唱)

杉の木は、風によって
幾度となく困難にみまわれ、
しばしば、根こそぎ倒されてしまうでしょう。
神によってなされた助言と行いは、
わめき立てて逆らうものを、気にも留めません。
なぜなら、神の御言葉は全く別の方法で教えているからです。

6. 合唱

私の目は、絶えず主へと向けられています。
主は、私の足を網から引き出してくださるのですから。

(『詩編』25編 15節)

7. 合唱

苦しみの中にあつた私の日々を、
神は、喜びに終わらせてくださいます。
茨の道を歩むキリスト者たちを、
天の力と祝福とが導くのです。
神は、変わることなく私の誠実な護りであり、
私は、人々の反抗など気にも留めません。
私たちの側に立って下さるキリストは、
私が日ごと、勝利を確信して戦うのを助けてくださるのです。

カンタータ 第 97 番 「私の全ての行いにおいて」

Kantate "In allen meinen Taten", BWV 97

用途不明のカンタータ

Paul Fleming 作のコラール « In allem meinen Taten » 第 1 ~ 9 節

このカンタータは 1734 年 7 月 25 日初演で、前出のカンタータ 177 番よりもさらに後に作られたものだが、用途がはっきりしていない。この年の 7 月 25 日は三位一体節後第 5 日曜日にあたるが、結婚式用のものではないかとも考えられている。歌詞は冒頭合唱から最後のコラールまでの 9 曲が、すべて P. フレーミングのコラール「In allen meinen Taten」の 1 ~ 9 節によっており、いわゆる全節詩コラール・カンタータのひとつである。歌詞は首尾一貫して「どんな時でも神に依り頼みましょう」という内容のもの。コラール旋律は H. イザークの「Innsbruck, ich muss dich lassen (インスブルックよさようなら)」に由来する。私は学生の頃少年合唱団が歌うこの曲を聴いて、その清澄な美しさに感動したのを憶えている。ハモるのに打って付けのメロディーだと感じる。

冒頭合唱曲はフランス舞曲風のやや厳かな雰囲気が始まる。オーボエ 2 本と弦楽、通奏低音だけの編成とは思えないくらいきらびやかな響きである。やがて Vivace の軽やかな曲調に変化し、コラール旋律を歌うソプラノを先頭に合唱が加わってくる。アルト以下の 3 パートが音程の上下する流れるようなメロディーを軽やかに歌い、その上でソプラノが歌うコラールは、間に魅力的な間奏を挟んで、ほぼ同じ旋律を 2 回繰り返す。しかし、これでは終わらず、最後は下 3 声と一緒に、後半部分の歌詞が新たなメロディーでもう一度歌われるというやや変則的なものとなっている。177 番の解説ではバッハが稀代のメロディー・メーカーだと書いたが、この曲を聴いていると、バッハの音楽のリズム感の素晴らしさ、乗りの良さにも感心しないではいられない。こういう曲を礼拝の最中、聴衆はほんとうにじっとして聴いていたのだろうか。

アリアはレチタティーヴォ 2 曲を挟んで 4 曲あり、さらに二重唱が 1 曲ある。これまた個性と変化に富んだ名曲揃いだ。アリア 4 曲は低声部から、すなわちバス、テノール、ア

ルト、ソプラノの順で、アルトとソプラノの間、順番からいけばレチタティーヴォが来るところに二重唱が入るという構成になっている。

最初のバスのアリアは通奏低音を伴奏とする渋い曲で、「すべてを神のご厚意にまかせます」と歌う。テノールの短いレチタティーヴォに続いてアリアが歌われる。この曲ではその比較的長い前奏部分にまず驚かされる。独奏ヴァイオリンが重音奏法など様々な演奏技巧を駆使して実に気品のある優美なメロディーを奏でるのだが、目をつぶって聴いていると一幅の絵画が脳裏に浮かんでこないだろうか？それほど美しく表情に富んでいて、この前奏部分を聴いただけでもう胸が一杯になってしまう。こんな曲が眠っているからカンタータはやめられない。

アルトのレチタティーヴォに続くアリアもなかなか魅力的だ。まず、出だしの落ちていくようなフレーズが刺激的で、それを受け止めた弦楽が躍動的な前奏を奏でる。歌が始まると、「oder ziehe fort (あるいは外に出ていく時)」という歌詞に付けられたフレーズが何度も繰り返され印象的で、このメロディーが弦楽の前奏部、間奏部にもアクセントを加えている。次はソプラノとバスによる二重唱である。ソプラノとバスの二重唱というと、有名なカンタータ 140 番の二重唱のように、イエス (バス) と魂 (ソプラノ) との対話曲的なものが多いが、この曲はそうではない。互いに手を携えて、自分の運命を生きていきましょうという思いが輪唱のように歌われる。この後さらにソプラノのアリアが続く。2 本のオーボエが絡み合うようにオブリガート・メロディーを奏で、ソプラノはひたすら「私は神の御心にすべてをゆだねます」と歌う。

終曲コラールは冒頭合唱で出てきた有名なメロディーで、4 部合唱+弦楽 3 声による華麗な 7 声部楽曲となっている。合唱の和声付けは複雑で、特にテノール・パートの面白い動きに注目していただきたい。

1. Chor

In allen meinen Taten
Lass ich den Höchsten raten,
Der alles kann und hat;
Er muss zu allen Dingen,
Soll's anders wohl gelingen,
Selbst geben Rat und Tat.

2. Arie (Bass)

Nichts ist es spat und frühe
Um alle meine Mühe,
Mein Sorgen ist umsonst.
Er mag's mit meinen Sachen
Nach seinem Willen machen,
Ich stell's in seine Gunst.

3. Rezitativ (Tenor)

Es kann mir nichts geschehen,
Als was er hat ersehen,
Und was mir selig ist:
Ich nehm es, wie er's gibet;
Was ihm von mir beliebt,
Das hab ich auch erkiest.

4. Arie (Tenor)

Ich traue seiner Gnaden,
Die mich vor allem Schaden,
Vor allem Übel schützt.
Leb ich nach seinen Gesetzen,
So wird mich nichts verletzen,
Nichts fehlen, was mir nützt.

5. Rezitativ (Alt)

Er wolle meiner Sünden
In Gnaden mich entbinden,
Durchstreichen meine Schuld!
Er wird auf mein Verbrechen
Nicht stracks das Urteil sprechen
Und haben noch Geduld.

6. Arie (Alt)

Leg ich mich späte nieder,
Erwache frühe wieder,
Lieg oder ziehe fort,
In Schwachheit und in Banden,
Und was mir stößt zuhanden,
So tröstet mich sein Wort.

1. 合唱

私の全ての行いにおいて
私は至高なる方に、助言をして頂きます、
万能にして、万物の主なる方に。
神は、全ての物事が、
それぞれに十分上手くいくように
自ら助言と御業を与えてくださるはずです。

2. アリア (バス)

夜遅くに休むことも、朝早く起きることも
私の苦労はまるで意味がなく、
私の心配も無駄なものなのです。
神は私の事について
ご自分のご意志のままに取り計らってくださいから、
私は神のご厚意にまかせるのです。

3. レチタティーヴォ (テノール)

何ひとつ、私の身には起こりえないのです、
神がお選びになること、そして
私にとって無上の喜びとなることの他は。
私はそれを受け入れます、神が与えてくださるままに。
神が私に望ましいと思われることを、
私もまた、選び取ったということなのです。

4. アリア (テノール)

私は神の恵みを信じています。
それは、あらゆる障害や、
あらゆる悪から私を守ってくださいなのです。
私が神の律法に従って生きるなら、
私を傷つけるものは何一つなく、
私の役に立つものが、何ひとつ欠けることもないでしょう。

5. レチタティーヴォ (アルト)

神が、私の罪から
慈悲をもって私を解放し、
私の罪の重荷を消し去ってくださいますように！
神は、私の犯した罪について
ただちに裁きを言い渡すことなく、
なお寛大さを示してくださいませ。

6. アリア (アルト)

私が夜遅く眠り、
再び朝早く目を覚ます時、
床につく時、あるいは外に出ていく時、
弱っている時、捕らわれの身にある時、
そして私が何か事に突き当たった時、
神の御言葉は、私を元気づけてくださるのです。

7. Arie (Duett: Sopran und Bass)

Hat er es denn beschlossen,
 So will ich unverdrossen
 An mein Verhängnis gehn.
 Kein Unfall unter allen
 Wird mir zu harte fallen,
 Ich will ihn überstehn.

8. Arie (Sopran)

Ihm hab ich mich ergeben
 Zu sterben und zu leben,
 Sobald er mir gebeut.
 Es sei heut oder morgen,
 Dafür lass ich ihn sorgen;
 Er weiß die rechte Zeit.

9. Choral

So sei nun, Seele, deine,
 Und traue dem alleine,
 Der dich erschaffen hat;
 Es gehe, wie es gehe,
 Dein Vater in der Höhe
 Weiß allen Sachen Rat.

7. アリア (ソプラノとバスの二重唱)

神がお定めになったのならば、
 私は辛抱強く
 自分の運命を進んでいきます。
 この身にふりかかる、いかなる災いも
 私にとって厳しすぎることはないでしょう。
 私はそれを耐え抜きましょう。

8. アリア (ソプラノ)

私は神に、我が身をゆだねています
 死ぬのも、生きるのも、
 神が私に命じるままに。
 それは今日か、あるいは明日か、
 私は神の御心にまかせているのです。
 神は、ふさわしい時をご存じなのですから。

9. コラール

ですから、さあ魂よ、あなたのままでありなさい
 そして信じなさい、ただひとりの方を、
 あなたの創り主である方を。
 たとえどうということになろうとも、
 いと高き所におられるあなたの父は、
 あらゆる事への策を心得ていらっしゃるのです。



2015年 第23回演奏会
 於：紀尾井ホール

■指揮 辻 秀幸

Ensemble14 指揮者。

幼少よりヴァイオリン・ピアノ・フルート・金管楽器・作曲を学び、東京藝術大学声楽科及び同大学院独唱科修了。

声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。1985年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L. グウアリーニ女史、F. タリアヴィーニ、H. リリングらの各氏に師事。

1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988・89年にはウィーン楽友協会大ホール、2000年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン“第9”のソリストを努め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなり

サイタル活動を展開し、オペラでは古典から現代に至るまで、数多くの作品に出演し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリスト・指揮者として、その活動は常に注目を集めている。

現在指導に当たっているアマチュア合唱団は13団体を数える。洗足学園音楽大学客員教授、日本合唱指揮者協会副理事長、東京都合唱連盟理事。共著に「わかって歌おう - レクイエム発音講座」、「フィガロの結婚 発音講座」等がある。

※ 辻 秀幸 公式サイト <http://www.davide-hide.com/>

■管弦楽 Millennium Bach Ensemble (ミレニウム・バッハ・アンサンブル)

2000年4月に田園調布教会で行われた「マタイ受難曲」演奏会において辻秀幸先生の呼びかけにより結成される。各方面で活躍中の若手演奏家からなる器楽団体。第2回演奏会以降、Ensemble14との共演が続いている。

ヴァイオリン I: 大西 律子*、鍋谷 里香
 ヴァイオリン II: 磯田 ひろみ、上ノ山 美香
 ヴィオラ: 高山 愛、渡邊 智生
 チェロ: 高群 輝夫
 コントラバス: 永田 由貴

ファゴット: 笹崎 雅通
 オルガン: 山本 庸子
 オーボエ I: 岡 北斗
 オーボエ II: 多田 敦美

* コンサートミストレス

■声楽 Ensemble14 (アンサンブル・フィアツェン)

辻秀幸先生のもとでJ. S. バッハのカンタータ等を歌うアマチュア合唱団。1998年8月結成。ソリストは団内オーディションにて選出し、プロのオーケストラ(主に現代楽器)と共演する演奏スタイルで、東京周辺にて活動している。

※ Ensemble 14 公式サイト <http://www.ensemble14.org>

E-Mail info@ensemble14.org

指揮者: 辻 秀幸 練習ピアニスト: 田城 章子
 代表: 室橋 明美 副代表: 小林 尚弘、柿原 紀子、佐藤 容司
 練習指揮者: 木下 剛、小田 奈穂子、室橋 明美、長澤 哲

Ensemble 14 出演メンバー

ソプラノ (Sopran)		アルト (Alt)		テノール (Tenor)	バス (Bass)
大軒 京子	原田 篤子	Jesse Astalos	竹内 望	笹部 雅人	大内 良太郎
川村 昌子	三上 香子	上田 暁子	寺崎 淳子	佐藤 容司	木下 剛
子井野 真貴子	湊 佳代	小田 奈穂子	冨樫 典子	長澤 哲	小林 尚弘
後藤 優花	室橋 明美	改田 晶子	中神 康一	中西 隆紀	菅野 松佐登
佐藤 かおり		柿原 紀子	山形 可奈子	橋元 正美	武内 崇史
菅野 総子		片山 薫	頼 甲子	室橋 義明	次田 章
中阪 理津子		小林 良子			

これまでの演奏 (抜粋) 作曲者: J. S. バッハ

- 1999年 4月 マタイ受難曲 抜粋演奏 (ピアノ伴奏) に、「マタイを歌う会」とともに出演 (日本基督教団奥沢教会)
- 1999年 9月 第1回演奏会 カンタータ 第106番、第150番、第155番 (ルーテル市ヶ谷センター)
- 2000年 4月 マタイ受難曲の全曲演奏に第2コーラスとして出演 (日本基督教団 田園調布教会)
- 2000年 9月 第2回演奏会 カンタータ第131番、第182番、第196番 (神奈川県民ホール 小ホール)
- 2003年 5月 第7回演奏会 ヨハネ受難曲 BWV 245 (津田ホール)
- 2005年 9月 第10回演奏会 マタイ受難曲 BWV 244 (日本大学カザルスホール)
- 2010年 7月 第16回演奏会 ミサ曲口短調 BWV 232 (紀尾井ホール)
- 2013年 2月 第20回演奏会 カンタータ 第21番、第38番、第137番 (浜離宮朝日ホール)
- 2013年 10月 第21回演奏会 カンタータ 第9番、第67番、第115番、第176番 (津田ホール)
- 2014年 6月 第22回演奏会 カンタータ 第84番、第94番、第102番、第108番、モテット6番 (浜離宮朝日ホール)
- 2015年 2月 第23回演奏会 カンタータ 第33番、第43番、第71番、第74番 (紀尾井ホール)

一覧 (BWVの数字に対応。赤字がこれまでの演奏曲)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140
141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160
161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180
181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220
221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240
241	242	243	244	245	246	247	248	249											

団員募集

Ensemble14では、第25回演奏会に向け、男性 (テノール・バス) 若干名を募集しています。
お問い合わせは info@ensemble14.org まで

Ensemble14 第24回演奏会プログラム
発行日: 2015年11月21日
発行者: Ensemble14
© 無断転載・複製を禁じます。

次回 第25回演奏会のご案内
2016年7月31日(日) 浜離宮朝日ホール
J. S. バッハ 作曲
カンタータ 第14番、第36番、第109番、第133番



Bach

主催 Ensemble 14
後援 JCDA 日本合唱指揮者協会